

令和元年度第1回白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議

開催概要

- 1 日 時 令和元年 11 月 12 日（火） 午後 2 時～午後 4 時
 2 場 所 白石市役所 4 階 大会議室

委員

番号	区分	団体等名称	役職	氏名	
1	産業界	白石商工会議所	会 頭	齋藤 昭	
2		白石蔵王地区企業 連絡会		猪股 政浩	
3		白石市産業振興会 議	代 表	佐藤 全	欠席
4	教育機関	宮城大学	名誉教授	富樫 千之	
5		宮城県白石高等学校	校 長	脇坂 晴久	
6		白石市立小中学校 校長会	会 長	半田 弘之	欠席
7	行政機関	東北財務局	総務課長	青木 均	
8		宮城県大河原地方 振興事務所	地方振興部長	高橋 悟	
9		大河原公共職業安 定所白石出張所	所 長	菅野 良恵	
10	金融機関	七十七銀行白石支 店	支店長	佐藤 英明	
11		仙南信用金庫	地方創生支援業務 担当部長	菅野 勉	
12	労働団体	連合白石地区会議	事務局長	山内 洋介	欠席
13	報道機関	フリーアナウンサー		船越 理香	欠席
14	学識経験 者等	白石市歴史文化ア ドバイザー		麻生 菜穂美	
15		白石市議会	議 員	佐藤 秀行	
16		白石市観光協会	会 長	佐藤 善一	
17		白石青年会議所	理事長	佐藤 朋也	欠席
18		みやぎ仙南農業協 同組合	白石地区事業本部 地区事業本部長	佐藤 誠	欠席

19		白石市認定農業者 連絡協議会	(有) 竹鶏ファーム 常務	志村 竜生	
20		白石刈田地区父母 教師会連合会	会 長	志村 洋一	
21		子育て世代代表		佐藤 智美	
22		プランニング開代 表・アトリエ自遊 楽校主宰		新田 新一郎	
	白石市出席者				
		白石市長		山田 裕一	
		白石市副市長		菊池 正昭	
		白石市総務部長		山家 英男	
		白石市総務部 地方創生対策室		日下 忠績	
		〃		山田 裕介	
		〃		松本 志畝	

配布資料（以上、事前配布）

【次第】

【委員名簿】

【資料1】白石市総合戦略効果検証資料

【資料2】市民アンケート調査集計結果

【資料3】広報しろいし特集記事の写し

【資料4】農商工連携を核とした賑わい交流拠点について

【資料5】地方創生関係交付金事業採択・実施状況について

【参考資料】人口ビジョン及び総合戦略の体系

【参考資料】施策の概要と主な取り組み

3 議事概要

○今回より新たな任期となったので、各委員に対し、委嘱状の交付を行った。

○会長の選出。会長には富樫委員、副会長には齋藤委員を選出。

1) 「白石市まち・ひと・しごと創生創業戦略」の概要について

○総合戦略概要について

資料に基づき、事務局より人口ビジョン、施策の概要と主な取組に

ついて説明を行い、戦略の概要について確認した。

○地方創生市民アンケート調査集計結果について

資料に基づき、事務局より7月に実施した調査アンケート結果について説明を行った。前回の会議での意見を踏まえ、4年間の推移が分かるよう経年変化の資料も使用し説明を行った。

- ・おもしろいし市場に立ち寄ってみたが、歩く空間も広くて良かった。今後レストランもオープンし賑わい拠点として発展していくのではないかと感じた。

2) 平成30年度白石市地方創生事業の効果検証について

○基本目標1 産業の活力を生む新しい価値を創造し続けるまちづくりについて

○基本目標2 市民が主役になって地域をつくり、交流を楽しむまちづくりについて

○基本目標3 安心して子どもを産み育て、心やすらかに暮らせるまちづくりについて

○基本目標4 美しい自然を受け継ぎ、安全で快適に過ごせるまちづくりについて

資料に基づき、事務局より各基本的方向に位置づけられている先行事業、新規事業、継続事業の各項目について説明を行った。

富樫会長：子育て支援に関しては関係のない年代の人も多いので実感がわかないで答えている人も多いのでは。

事務局：策定当時は子育て世代に限定したアンケートを取っていましたが、地方創生のアンケートは年代を限定していないのでズレはあるかと思います。

佐藤委員：アンケートの結果で「産みやすい」と感じる割合が増えたがあったが、4年前から会議に参加させてもらっていますが、白石市の「産む」という環境については産院がまずありませんのでどうしても中核や柴田町に行って産むという環境になっている。今後仙台に集約するという話も出てきている中でなぜ増えたのかなということがとても不思議でした。白石市に（産科を）誘致できれば良いという話もあったが、産科医が来てくれない現状もある中でこの結果はどこまで信用できるのか疑問。実際に産んだ方に意見を取った訳ではないですね？策定当時の結果というのは？

事務局：当時は子育て世代に限定して、産みやすい、育てやすいを足して6割という数字です。

佐藤委員：産みやすいが達成されないことには育てやすいに結びついていかない、産むことが出来なければ育てやすいも何もないですね。

産むことができないならじゃあ隣の町に住もうとなってしまうと思います。こじゅうろうキッズランドが出来ていろいろなところから来てもらってはいるがその割合が市内なのか市外なのか、受付で分けられるので統計を取っているはずなので...

事務局：利用者は最新のもので11万6千人利用されていて、市内の割合は17.7%です。残りは市外です。

佐藤委員：市外の人から見るととても魅力的な施設なんだそうです。安くて、時間制限もない。持ち込みも出来る。サンパークで買い物も出来る。連休等には整理券が配られます。ですが市内から見ると、本当にそうなのかなというのが正直な意見です。

富樫会長：それぞれの市町村でそれぞれの施設を持ちたいところではあると思う。身近にあれば便利ですから。でもそうはいかないから拠点地域に施設があって交流人口をやっていくというのがベターなのではと思います。それが極端な形ででているのが「産む」というところで、県南地域の共通の課題。何とか病院に来て頂こうと努力はしたけれども、一朝一夕にはいかない。やむをえないところで産むというところは中核都市にお願いして育てるところを自分のまちで、という風になってきているのではないかと思います。

佐藤委員：国見にも産科がなくて保原に行っているという話を聞きます。近隣へのアクセスが良ければいいが中核まで仙台圏に集約となってしまうと個人病院に集中したり、特殊な状況でないとは受け入れてもらえない、産科予約をしないと産めないということになれば、仙台の方に住もうとなってしまうのではないかと思います。

富樫会長：非常に大きな課題の1つということで、すぐに解決というのは難しいけれども・・・

佐藤委員：「産み育てやすい」目標を掲げるのであれば、もうちょっと「産む」ということに対してシビアに向き合っていないとこのままでは消滅都市になってしまうのではないかと危惧しています。

市長：「産む」という言葉ですが、「出産する」ということだけじゃなくて、例えば妊婦健診を通じて産む準備をすとか、そういうことも含めての意味として認識しております。刈田病院になんとか産科が復活できるように産科医の招聘については普段も力を入れて行っていますけれども、国策として産科医の数が減ってきている現状と、一番あってはならないのは現場での医療事故、産科医の労働環境が母子の命を守れる体制でないといけない。一つの病院に複数の産科医がいる体制、仙台でも公立で出産ができる場所は5つしかありません。大崎も市民病院のみ。国策として一番大事な命を守ろうという動きになってきているので、「産む」ところだけを見つめるのは日本全国からみても難しくなっている

のかなと思います。産む場所のことは本当に大きな課題だと思っています。キッズランドのほうは、白石市民がどれくらい来ているかという割合でみれば17.7%ですが、外から来ている母数が多いので、白石市民が少なく見えてしまうのがあって、決して利用していないわけではありません。予想以上に他から来ていただいている。その分おもしろい市場での経済効果が生まれています。

佐藤委員：サンパークのほうに来て、観光の人口が増えるのはいいことだと思うのですが、市民の意見としては、自分のとこの子供達が入れない状況になってしまっているので利用をあきらめたということもあるようです。ないものねだりだと思いますが、屋外の遊び場という声も聞こえてきます。

佐藤委員：以前斎川で行った全住民アンケートのように、学校や幼稚園、保育園を通じて、集計等お母さん方の力も借りながら意見の吸い上げを行うというのも、ひとつの意見のとり方としては良いのではないかなと思いました。

富樫会長：入れないというのは知りませんでした。

施策を行ううえで意見を聞くのであればもうちょっとターゲットを絞ったうえで聞くというのをやられるとよいかなと感じました。

麻生委員：資料1の後継者育成支援のデータがないのですがこれは実施しなかったということでしょうか。

事務局：インターンシップに関しては移住定住のほうで企業等の都合で実施が出来なかった

麻生委員：ずっとやっていなかったということ？

事務局：インターンに関しては地域おこし協力隊の紹介等も兼ねて体験ツアーを実施しています。インターンシップに限定したものに関してはやっていないと原課よりきいております。

麻生委員：項目としてあるということは、こういった事業をやりたいと思って交付金等申請なさっていると思うのですが。それに対して目標値もありながら全くやっていないというのはどうなのかなと・・・後継者の育成はとても大事なことだと思うのですが、0件、というのは・・・次のページのWi-Fiアクセス件数もない。

事務局：アクセス数については28年度までは数字が出ているのですが、使用言語で数を出すようなのですが、資料の作成までに集計が間に合いませんでした。数値を上げるのは可能と聞いております。

麻生委員：29年度は？

事務局：29年度、30年度に関して数値を出してもらうよう原課にお願いしているところです。

富樫会長：次回の資料には上げてもらえますか？

→HPに掲載時には数値をそろえて掲載する。

富樫会長：観光人口、交流人口という視点で観光協会さんいかがですか。

佐藤（善）委員：今の観光は変わってきている。どのように観光しているかというのと昔みたいに温泉に入ってお酒飲んでゆっくりして、という方は少なくなり体験型が増えてきている。それからスポットなんですね。キツネ村に来たら他には行かないんです。JRで外国人が乗りやすい乗り放題があるのですぐに新幹線で他へ行ってしまいうんです。白石に長時間いるという観光が少なくなり、観光のやり方が変わってきています。

富樫会長：白石市としても交流人口、関係人口増のために今までにない戦略を市と連携しながら観光協会さんとも進めていく方法に変えなくちゃいけない。

佐藤（善）委員：要求をはねのけるんじゃなくていかに利用するかという逆発想でいかないと観光地を開発するのはなかなか難しい。道路等お客さんが来やすいように、生きたものをいかに市が利用するか。

麻生委員：資料1のホームページのアクセス数とありますが、若い人たちはすべてネットで動きます。そこで市のホームページを見てみると、鬼小十郎まつりはとっくに終わっているのに「開催されます」と出てきます。鬼小十郎まつりのページまで行くと終わったと出ているが最初のページが更新されていないと古い情報しか載せない市だと思われてしまいます。それにトップページが全然魅力的じゃない。歴史と文化と美しい自然のまちというようなキーワードを使ってトップページを作ってほしいと思います。そうすればますます伸びていくのではないかと思います。

富樫会長：ホームページはどれくらいの間隔で更新しているのですか？

事務局：随時新着情報があれば更新しています。全体的には広報係ですが各課も随時更新できるようにはなっています。今回災害等もあり更新できていなかった部分があるとは思いますが今後リアルタイムの更新をしていくよう検討していきます。

富樫会長：一番最初のイメージになるものなので、ぜひお願いします。

新田委員：子育てのデータが信用できないというのは私もそう思う。

今難しいんです、日本で子育て、産み育てるということが。この国日本は10-19歳の自死の率が世界で一番高い。子どもも若者も生きづらいと感じているんです。一番生きづらいと感じている日本の自死率3位が宮城県。となると宮城県で子ども、親をやっているということがなかなか大変。

こじゅうろうキッズランドは当初8万人も危ぶまれていた。ありえないという感じだった。運営に関わらせていただいて8万人ど

ころか10万人来た。市民も無料券もあったので一人3回以上は来ている結果になっております。東京ディズニーランドは日本全国の人が2.5回行っているところなので、リピーターとしては良いと思う。それよりも近隣の他の市町村から来た人にお金を落としてもらう仕掛けで今ある資源を活かすことにウエイトをおいたのは得策だった。

学院大で観光について授業をしているが、観光で1回づついくという時代は終わった。何回も行く。顔馴染みをつくる。交流ですね。この仕掛けをなんとか作る。点から線、線から面とやっていたが駄目だった、あそこに行って何かをすることで打ち出していくとこれからの時代に合う。日本で一番入館者が多い美術館は森美術館。撮影OKとして発信してもらった。発信を市民、お客さん、市が自らやっていくことで発展していくのではないかと。富樫会長：一人ひとりにあったメニューを提供するという、視点を変えて仕掛けをつくるが必要となってきていますね。禁止されていたものを開放する等で発信していく視点が必要な気がしています。

脇坂委員：白石高校の課題研究について紹介させていただきます。

白石高校もより良い未来を作る若者を育成しています。総合的な学習の時間をつかって、世界の問題と向き合わせる。気候変動や格差の問題など。世界的な視点を持って世界的な規模の課題を学習したうえで、白石市内の方々の話をきいて、白石市がどのような課題をもち、人々が解決に向けてどのような努力をしているか、直接取材をして、世界の課題と地域の取り組みを結びつけて自分たちで情報を編集してプレゼン発表するという活動をしています。SDGsの17の目標に合わせて17のゼミ群を作り好きなところに参加できるようにしています。SDGsのカラフルなデザインを活用し関連性のある課題を結びつけて高校生の探求、視野が広がっていくということでSDGsの良さを活かしながら自分たちがどのように社会に関わっていけるか考え目標設定に繋げていきたいと考えています。そうやって一回は東京に出ても地域の役に立ちたいという生徒が帰ってきてくれればという思いで取り組んでおります。

富樫会長：よろしくお願ひします。

齋藤副会長：地方創生というテーマが出ていろいろな施策をやってきたが、人口減少はそんなに簡単に防げないということがだんだん分かってきた。地域において資金の循環を図るツールがある。環境省が出しているもの。「地域経済循環分析」人口が減っても地域が持続できるやり方を模索したほうが何とかなるんじゃないかと。利益を地域内で循環していくことはなかなか難しい。少子化はな

かなか止められないけれども、その中で最適な経済循環をどう作っていくかは大きなテーマになると思います。

三浦委員：アンケート結果を見ると、雇用環境を作って欲しいという要望が出ている。若い方の人口流出は結局所得、自分がどれだけ稼げるかという部分に原因がある。同じ仕事をするにしても、東京では稼げる、チャレンジできる、もっとハイレベルな仕事ができるという想いは皆さん持っているので、結局所得を上げてやれないと難しいというのが結論。地元に着はあると思うので、同じレベルで稼げるのなら敢えて東京にいなくても良いというひともいる。そこをどう捉えていくか。特に最近女性の流出が多い。東京の方がはるかに賃金が高いから。女性が減ると男性も減るという流れが出てきてしまうので、そのところを考えていく必要があると思います。

富樫会長：逆に地元で頑張ろうという志村さんいかがですか。

志村（竜）委員：僕もUターンで8年前に戻ってきたのですが、今は実家の会社の経営をやっています。生産者も農家もやはり所得が低いという理由で後を継ぎたがらない。サンパークも出来て、白石の農業もすごく変化が見られるようになったのですがやはり後継者不足で20代、30代は数えるほどなので、そこにたいする施策、人口減少も食い止められない部分なので農家の高齢化も免れない。そこでいかに生産性をあげるか、見せ方、ブランディングも大事だと考えています。サンパークもキッズランドももう少し連携して若者が集まる拠点のようにできれば、食と農のほかに観光や教育も関わられるので、何か枠組みを作って例えばSDGsもとても良いキーワードなので、長期的なプログラムでみんなで話し合っていければよいのではと思いました。

富樫会長：成功事例を作って農業で「儲かる」のを見て頂かないと分からない。それをどうやって作っていくか。また市民がいかに受け身でなく能動的に行動をとっていけるかも重要になってきます。

志村（洋）委員：アンケートに関しては関わる世代を中心に信頼出来るデータをとってほしい。今白石市内かなり不登校が多く、一部では学級崩壊等も起こっている所以そこが気になっている。この先子どもが安心して学校に通える白石になってほしい、そこは重要だと思う。何とかやっていかなければならない部分と感じています。

佐藤（智）委員：学年のうち半分が学級崩壊してしまい、先生が対処に時間を取られて他の子どもたちが勉強したくても自習になって学習が遅れていってしまう。それは中学・高校と影響が出てきてしまうので、PTA、学校、教委だけではなく地域全体で取り組

んでいかないといけない問題だと思います。

菅野委員：ハローワークの実情として、企業から正社員の募集が来ますが、紹介できる方がいないという現実があります。求職に来る方も様々な問題を抱えていらして、求人にすぐに応えられないこともあります。高齢者のかたも含め、マッチングできるよう支援していきたいと考えています。

○その他

事務局より

- ・令和2年度以降の総合戦略について

白石市の総合戦略は総合計画を実現するための手段として位置づけており、第6次総合計画を策定中。来年9月議会に基本計画を提出予定。総合戦略に関しても準じて策定していきたいので、それに合わせて今の戦略を検証しながら、会議を開催する予定です。総合計画の進捗に合わせて次の会議を招集いたしますのでよろしくお願いいたします。

- ・副市長より台風19号の被害について説明。
- ・本日の検証結果につきましては、12月 日より開会される定例議会において、行政報告させていただく予定であります。また、後日市のホームページへも掲載をさせていただく予定であります。

市長より

第5次総合計画が令和2年で終了。第6次総合計画では、これまで以上に人口減少が進む現状を市民の皆様にご理解いただいて、各地区がそれぞれ持続可能な地域づくりをしていくために、第5次計画ではまちづくり宣言を各地区で策定していただきましたが、第6次計画策定にあたってはまちづくり宣言の検証・見直しをしていただいて、市が作った計画ではなく、市民の皆さんが私たちの計画と思って頂けるようたくさん参加していただいでみんなで作る計画としたいと考えています。それを踏まえたうえでの総合戦略になると思っています。急激な社会の変化、気候の変化の中で持続可能な白石を作っていくために、今後ともご協力をお願いいたします。